

日本臨床検査医学会 第 57 回学術集会 EBLM 委員会教育セミナー

日時： 平成 22 年 9 月 12 日午前 9 時～午後 3 時

場所： 京王プラザホテル 本館 47 階「あおぞら」

テーマ 臨床検査に必要な統計処理法の理論と使い方の実際

司会 山口大学大学院医学系研究科 市原清志

国際医療福祉大学 西堀 眞弘

臨床検査分野では、検査の技術的評価（精度管理・標準化）や臨床的評価、基準範囲の設定、病態解析など、さまざまな統計処理法が利用されます。本教育セミナーでは、各手法の理論的な背景を解説し、臨床検査に固有の例題を使って演習していただくことで、その使い分けや利用上の注意点を習得していただくことを目指しています。

9:00～10:10

1. 測定の不確かさの算出と検査値の変動要因の分析法（70 分）

山口大学大学院医学系研究科 市原清志

枝分かれ分散分析法は、計測誤差の成分解析、臨床検査値の変動要因の分析など、臨床検査データの解析に不可欠の手法となっている。その理論と使い方の実際を、代表的な事例を用いて解説し演習を行う。また同じ目的で利用可能な、重回帰分析法との類似性と相違点についても触れる。

10:20～11:30

2. 測定値の方法間比較のための統計処理法と使い分けの実際（70 分）

千葉県救急医療センター 佐藤正一

臨床検査の測定法を技術的に評価する場合、精確さの評価に加え、比較対照法との方法間比較が必要となる。方法間比較では、各種の回帰直線、偏差図、相関係数、一致度指標（カッパ係数等）が利用されるが、それぞれの算出方法、使い分け、ピットフォールについて解説し、身近な例を使って演習を行う。

11:40～12:20 (12:20～13:10 昼休み) 13:10～13:50

3. 臨床検査の診断的有用性の評価法（80 分）

大阪大学医学部附属病院 山西八郎

疾患群と非疾患群の判別特性の評価に用いられる、感度、特異度、オッズ比、ROC 曲線下面積などの指標の求め方、考え方を解説する。また、複数検査の

診断的有用性の比較評価法として、多重ロジスティック分析法と ROC 分析法を対比させて解説・演習を行う。

13:50～15:00

4. クラスタ分析による検査情報の分類と解釈 (70 分)

高知大学医学部附属病院 片岡浩巳

クラスタ分析は、データの類似距離に基づいてデータに潜むグループ構造を探り出す手法である。人為的には区別が困難な多変量情報についてその特徴を発見する手がかりとして利用される。クラスタ分析の原理と臨床検査分野での具体的な応用例を、演習を交えて解説する。

演習方法：実際の数値例（エクセル形式で配布）を使った演習で理解を深めていただくことを目標としていますので、必ずノート PC（OS は Windows 2000, XP, Vista, 7）を持参下さい。演習には、汎用統計解析ソフトウェア StatFlex の講習会版（無料）をインストールしてご利用いただきます。

受講対象者：日本臨床検査医学会会員

募集人数：40 名

参加費：5,000 円。なお、本セミナーだけに参加される場合には、学会参加費として別途 3,000 円（1 日参加費）が必要となります。

受講申し込み・問い合わせ：受講希望者は氏名・所属・連絡先（電話番号・メールアドレス）を明記の上、下記までお申し込み下さい。

koya_yu@yamaguchi-u.ac.jp（担当：山口大学医学部市原研究室 小柳祐二）

電話：0836-85-3183 **Fax**：0836-35-5213

申し込み締め切り：2010 年 8 月 20 日（金）、ただし定員になり次第締め切ります。